

[果樹部門 平成29年度 指導参考資料]

事項名	りんご害虫キリガ類の防除法		
ねらい	キリガ類は幼虫が好んで幼果を食害するため、発生が多い場合に実害が生じる。そこで、テブフェノジド水和剤（ロムダンフロアブル）のキリガ類に対する効果を検討したところ、実用性が確認されたので、参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 防除法 キリガ類の発生が多い場合には、「開花直前」（3200/10 a）または「落花直後」（3500/10 a）にロムダンフロアブル3,000倍を散布する。</p> <p>2 薬剤名等 (1) 一般名：テブフェノジド水和剤 (2) 商品名：ロムダンフロアブル (3) 有効成分：テブフェノジド20.0% (4) 人畜毒性：普通物</p> <p>3 使用基準（りんご） (1) 適用害虫：ハマキムシ類、キリガ類、ケムシ類、シャクトリムシ類 (2) 希釈倍数：1,500～3,000倍（ハマキムシ類、キリガ類）、3,000倍（ケムシ類、シャクトリムシ類） (3) 使用液量：200～7000/10 a (4) 使用時期：収穫14日前まで (5) 使用方法：散布 (6) 使用回数：2回以内 (7) テブフェノジドを含む農薬の総使用回数：2回以内</p>		
期待される効果	キリガ類の発生密度の低下と被害の軽減が図られる。		
利用上の注意事項	<p>1 本資料は平成28年12月13日現在の農薬登録内容に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して使用者の責任のもとに使用すること。 「農薬情報」（http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/） 「農薬登録情報提供システム」（http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm） また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更された農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用すること。</p>		
問い合わせ先（電話番号）	りんご研究所 病虫部（0172-52-2331）	対象地域及び経営体	県下全域のりんご作経営体
発表文献等	<p>平成27年度 試験研究成績概要集（りんご）（りんご研究所） 平成27年度 新農薬実用化試験成績書（寒冷地果樹）（日本植物防疫協会）</p>		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 ロムダンフロアブルのアカバキリガに対する防除効果1 (平成27年 青森りんご研)

薬 剤 名	希釈倍数	接種幼虫数		6月3日(散布7日後)			薬害
		5月18日	5月25日	生存虫数 (生存率)	死亡虫数	不 在 巻葉数	
ロムダンフロアブル	3,000倍	30	27	0 (0%)	5	14	—
ダーズバンDF	3,000倍	30	27	0 (0%)	7	27	—
無 散 布	—	30	27	7 (12.3%)	0	31	—

(注) 9年生「ふじ」/マルバカイドウ(ワグネルポット植え)を1区3樹供試し、5月18日及び5月25日に若齢～中齢幼虫を接種した。5月27日に電池式噴霧器で1樹当たり約300mlの薬液(展着剤マイリノー10,000倍を加用)を散布した。
散布7日後に当たる6月3日にすべての巻葉を対象に生存虫、死亡虫、不在の別に計数した。

表2 ロムダンフロアブルのアカバキリガに対する防除効果2 (平成27年 青森りんご研)

薬 剤 名	希釈倍数	接種幼虫数	生存幼虫数	生 存 率
ロムダンフロアブル	3,000倍	60	0	0 %
ダーズバンDF	3,000倍	60	0	0 %
無 散 布	—	60	52	86.7%

(注) 5月13日に殺虫剤無散布圃場から「ふじ」の成葉を採取し、展着剤マイリノー10,000倍を加用した薬液に約20秒浸漬処理した。風乾後、ポリプロピレン容器に5枚ずつ入れ、若齢幼虫を1容器当たり10個体放虫した。
処理6日後に当たる5月19日に容器内の生存幼虫数を計数した。



図1 キリガ類幼虫による幼果の被害

(参考価格) 3,000倍10a当たり3200及び3500(立木全面)散布で、950円及び1,040円(税込み)。